

過度な販売体制の縮小で駅職場は疲弊しています！

新型コロナウイルス感染症による政府の「緊急事態宣言」が解除されて以降、一部の営業職場では窓口の営業時間を短縮しつつも、縮小していた販売体制が徐々に元に戻りつつあります。（営業していた窓口数を増やし対応）

しかし、ある営業職場（以降、「A 駅」と表記します。）では、「緊急事態宣言」解除後に窓口が非常に混雑している状況を鑑み、**複数の社員が「1つの窓口で対応するのではなく2つの窓口での販売に戻すべきではないか？」「免除で自宅待機となっている社員を出勤させるべきではないか？」と管理者に求めましたが、当時、その悲痛な声に耳を傾けることもなく、「2窓体制には戻さない」と1窓体制での営業を貫き通す姿勢でした。**

【B 駅】

組合として会社に「〇月〇日という期限を以て営業窓口数の縮小を終了すること」を求めたところ、私たちが求めた日付通りに窓口数縮小は終了した。

他の多数の駅職場でも6月1日頃を境に営業窓口数が戻りつつある。



【しかし、A 駅は…?】

- ・ 混雑状況を鑑みて窓口数を元に戻すよう求めたが、会社は「戻すつもりはない」の一点張りだった。
- ・ 数日後、一時的に窓口数を2つにしたが、正式な要員ではなく、あくまでも超勤で一時的に対応しただけ。
- ・ さらに後日、ようやく正式に2窓営業となり、元の営業窓口数に戻った。

通学定期券の販売などが増え、さらに混雑が増すことは想定の範囲内でありながら、営業する窓口の数を元に戻そうとしないという姿勢を見せていました。現場社員の苦勞に向き合わない会社の姿勢が浮き彫りになっています。

一方、C 駅社員と管理者とのやり取りの中でこのようなことも見えてきました。

【C 駅社員と管理者との会話】

※緊急事態宣言が解除されれば窓口数削減を解除することを駅長に確認した前提での会話

社 員：窓口の体制はいつ戻すのか？

管理者：支社に問い合わせたら一括で指示すると言われている。

社 員：他地区のD 駅は既に体制が元に戻っているが？

管理者：あれは駅の判断のようだ…。

整合性なし！
統一性なし！

**A 駅の体制はほぼ元に戻りましたが、それ以前の現場の状況を見逃した姿勢は許せません！
緊急事態宣言発出前⇒発出中⇒解除後の状況の比較・検証を行います！**